

# Newsletter

NPO法人

日本こどものための委員会

E-mail: [info@cfc-j.org](mailto:info@cfc-j.org)

URL: <http://www.cfc-j.org/>

## セカンドステップは前進する

理事長 渡辺俊一

5月22日から2日間、東京で第9回「セカンドステップ指導員研修会」が開催されました。北は秋田から南は鹿児島まで43名の受講者をえて、充実した一時でした。目下、当日のアンケートを集計中ですが、講師陣も事務方もかなり高い評価をえたようです。今回は、講師によるマニュアルづくりが進み、確実に研修会の体制が整ってきました。

今回から、研修生（研修会修了者）の間でメーリングリストをつくり、相互に交流する試みを始めます。これにより、実践現場からの問題提起と相互交流が進むものと期待しています。当分は試行段階ですが、できれば将来の研修生も順次加え、最終的には会員全体のメーリングリストにしたいと考えており、その意味を込めて「Mネット」（Mはメンバー）と名付けました。

これは、研修後のフォローアップ体制の充実の一環です。さらにその先には、研修生から認定「指導員」への段階があります。研修生による実践は未だ「仮免」の段階です。（ですから有償での実践はできません。）しかし、指導員の資格審査を通れば、正式に「本会認定の指導員」と名刺にも明記し、事前許可により一定の有償実践が可能です。そのための「セカンドステップ指導員資格審査」の申込は、年2回（6月末と12月末）です。目下、受け付けていますので、WEBを参照のうえ、ぜひお申込みください。

前号でもお知らせしましたが、福祉医療機構から「キレイな子を育てる『セカンドステップ』親子塾」で助成金をいただきました。その内容は3つです。第1は「親子塾」で、世田谷区代田、神奈川県秦野市、群馬県太田市で、親子おのおの約10組20人に対してセカンドステップ28レッスンを実践することとなりました。第2は、それを支援し、セカンドステップ実践の効果測定をする研究会（委員長小山理事）を発足させました。第3はこれに関連して、一連の講演会を開催することです。これにより、保護者へのアプローチと研究面の着手という、従来からの懸案に取り組むことになりました。

この夏の研修会は7月末の東京のあと、8月初旬に大阪で開催します。これも懸案の、東京以外での研修会の第1号です。両方とも、アメリカのCFCから、ローリー・ベーカー先生を招き、通訳付きで本場のセカンドステップ研修を体験していただきます。申込みはすでに受け付けていますので、WEBをご覧ください。研修会の地方開催としては、これをきっかけに地方展開をしたいと考えています。特に「1日研修会」については、地元の要請があれば、前向きに対応したいと思いますので、ぜひ事務局までご連絡ください。

事務局が6月1日に引っ越しました。今までは、井の頭線東松原駅から徒歩40「歩」のお寿司屋さんの2階、6畳1間でしたが、今度は同駅から3分、羽根木公園前のお花屋さんの2階、1DKです。すこし広くなりましたので、お近くへお出かけの折りは、お立ち寄りください。これを契機に、事務局の充実、効率化を図っています。

非欧米圏で唯一のセカンドステップ実践国である日本で、私どもの会はこれから、東アジアを中心に、国際的にも大きな使命を感じています。このように大きな視野と使命感にたつて、どうか皆さんと共に、多くの実践を重ねてゆきたいと思います。日本中の呻いている子どもたちに、温かい手を差し伸ばしてゆきましょう。

## 児童相談所小学生グループへのセカンドステップ導入の試み

児童相談所心理係 本多映子

### 【セカンドステッププログラム導入】

ここ数年、ADHDもしくは被虐待児が増えており、その対応に苦慮する担任や親からの相談が多く、系統だったプログラムを求めている時期に、セカンドステップに出会った。このプログラムは、学校や学童保育など毎日の生活の場でスキルを展開させていく事が重視されている。児童相談所の場合は、月2回だけでは効果があげにくいいため、保護者も一緒に参加してもらい、スキルを家庭の中で実践してもらった。

〔 月2回、計12回、30分程度（1回）  
参加児童の人数：小1から小6のADHD等の12名 〕

### 【セカンドステップ前期 相互の理解】

通常活動の最後に「セカンドステップ」タイムを設け、「こころの学習」の時間であることを説明し、毎回大きな紙に書かれた「セカンドステップ」の文字を見せた。前に子どもたちが座り、後ろ側を保護者の席とした。写真の迫力は子どもたちの関心をひき、情緒的表現が共感的に誘発され、自分の体験を例に話がでた。さまざまな感情を模倣表現するロールプレイは、好評であった。

### 【セカンドステップ中期 共感的態度と問題解決のスキル】

しかしながら回を重ねると、新しく参加する子は興味を示すが、高学年の児童はセカンドステップの時間になると「幼児さんじゃないよ！ばかにするのか！」と拒否反応を示した。参加児の構成が小1から小6と幅が広いいため、実施に工夫と熟練が必要となった。ボランティア学生と一緒にロールプレイする機会を多くし、ゼスチュアゲームをとりいれた。解決方法の意見をだしあう「ブレインストーミング」では、あわてん坊ワンちゃんやゆっくりカタツムリの人形劇になると集中できた。「気持ちが変わること」「わざととうっかりのちがひ」など毎回のテーマを繰り返し強調した。

### 【セカンドステップ後期 怒りの扱い・終了式】

怒りの扱いのワークでは、「おちつくステップ」として深呼吸や5までゆっくり数える、「おちついて」と自分に言いかけせるスキルの練習は、子どもたちのお気に入りとなった。自分の怒りの感情に向きあうことなども、短い時間内で試すことができた。最後の回には、今までの復習のワークを実施し、書き上げた子には「終了証」を授与して、心について勉強したことをフィードバックした。この頃には、挙手せず発言がなかった子が、前半の活動場面の中で「これはセカンドステップでいえば なんだよね」と言いながら、フェアな行動をとる場面があった。また、終了のワークドリルでは、7割の子が気持ちの名前、ゆっくりカタツムリが教えてくれた「イライラした時の方法」を答えることができた。指導書にはバリエーションのアイデアが細かく書かれ、応用編も多様なので、今後も親子関係の改善など活用の幅を広げたいと考えている。

## ストックホルム国際会議報告

渡辺 紀久子（理事）

「第4回セカンドステップ国際会議」が5月中旬、スウェーデンのストックホルムで開かれた。北欧の春は遅く、人びとはオーバーにマフラー姿で冷たい風の街頭を歩いている。

今回の会議参加国は15カ国であった。前回までの10カ国（アメリカ、デンマーク、フィンランド、グリーンランド、日本、リトアニア、ノルウェー、スロバキア、スウェーデン、イギリス）に加えて今回、新たに5カ国（ウクライナ、オーストリア、イタリア、オランダ、スロバニア）が加わった。欠席の4カ国（カナダ、ドイツ、アイスランド、ロシア）を加えると19カ国となり、セカンドステップが世界に広まりつつあることを実感した。この中、すでに実践している国は、アメリカ、カナダ、イギリス、スウェーデン、デンマーク、ドイツ、日本、ノルウェーの8カ国である。

会議では、前年までと同様に、各国の進行状況の報告や実践効果の研究が発表され、グループに分かれて突っ込んだ討議が行われた。これらを通して、各国の参加者が困難な問題を抱えつつ、セカンドステップに真剣に取り組んでいることを改めて知った。しかも、セカンドステップの内容以前の問題が横たわっているようだ。グリーンランドでは、約8割がデンマーク語を話す、さまざまな方言があり「まず言語の統一が必要だ」とのことだ。スロバキアでは、人口の多くがジブシーで、その子どもたちを念頭において取り組んでいる。リトアニアでは、虐待やこどもの暴力が急増しているにもかかわらず、経済的に厳しい状況のため、研修会の参加者がその費用を払えず、学校も教材を買えない苦境にあるという。

北欧では、ほとんどが国からの資金援助を得て、セカンドステップを急速に普及させている。昨年、デンマークは、アメリカのファミリーガイド・ビデオと同じ内容のものを自国の出演者で制作したが、「文化的に合わない」と不評をかい、全部回収して大損した。しかし「今年は、独自の優れたビデオの作成に成功した」と誇らしげに自国版を披露してくれた。スウェーデンでは、言語がデンマーク語と類似するので、「翻訳は英語からよりも楽だ」とのこと。出版もデンマークに依頼して、3種類の教材（4～6才、7～8才、9～10才用教材）を一挙に出版した。全国の6,000校ですでに使用しており、この1年での飛躍に驚嘆させられた。グリーンランドも、文化的にはアメリカよりデンマークに近いゆえに、今回そこから教材を取り入れることに決まったようだ。ノルウェーでは「2、3才からセカンドステップの指導を始めた」という。

日本については、欧米諸国とは異なり、徹底したNPO市民活動で進めていること、研修会の各テーブルにファシリテーターを置く方式を開発したこと、独自の資格審査委員会を設けて指導員・指導講師を認定していること等を強調した。欧米以外で唯一のセカンドステップ実践国である日本は、注目を集めたようだ。

最終日は、参加者全員が船にのり童話館を見学してから、CFCの招待で夕食会が開かれた。食事後、各国の歌やダンスを披露しあった。フィンランドの踊りは、参加者が手をつないで2重の輪となり、歌が終わると向き合った同士で抱き合うようになる。私は「セカンドステップ、頑張ろうね」と、英国紳士としっかりハグしながら別れを惜しんだ。

(2004年6月7日記)

お知らせとお願い

理事会から (理事長 渡辺俊一)

《今後のセカンドステップ指導員研修会の予定》・・・次のとおり開催の予定です。

【2004年】

- ☺ 7月31日(土) 8月1日(日)
- ☺ 8月7日(土) 8日(日)
- ☺ 9月19日(日) 20日(祝)
- ☺ 11月13日(土) 14日(日)
- ☺ 2005年2月

7月、8月はアメリカ CFC のマスタートレーナー、ローリー・ベーカー先生による研修を行います。

8月7日8日は大阪で開催する予定です。

9月19日20日は山形大学で研修会を開催する予定です。東北在住の方々を、ぜひお誘いください。他は東京で行います。

《セカンドステップ指導員の資格審査》・・・本会認定の「セカンドステップ指導員」の資格審査は、年に2回行われます。締め切りは9月末日と3月末日です。

ホームページ (<http://www.cfc-j.org/information.html>) に申し込み用紙がついていますので、ご応募ください。

《新たな指導講師・指導員》・・・前回の資格審査の結果、指導講師に三好布生加さん、指導員に鎌田好子さん、島野正子さん、長崎慶子さん、本多映子さん、森淳子さんが3月27日に認定されました。

《セカンドステップの親子塾》・・・6月より東京と群馬、神奈川でセカンドステップの親子塾が始まります。

事務局から (事務局長 溝渕雅章)

《事務局が引っ越しました》・・・6月1日に事務局を引っ越しました。井の頭線、東松原駅から徒歩3分、羽根木公園入り口。

住所 〒156-0043東京都世田谷区松原6-10-13クレール東松原203

TEL 03-5329-1461 IP電話 050-3307-7758 FAX 03-5329-1491

《セカンドステップ―新聞等で紹介》・・・

AERA3月15日号 5月16日18時30分東京テレビ12チャンネル「世の中ガブッと！」

6月13日朝日新聞 6月18日19時30分NHK「特報首都圏」

《メールマガジンを開設しました》・・・メールマガジンを開設しました。会報より頻繁に最新のニュースを入手したい方は、ぜひ事務局へお申し出ください。また、住所、電話を変更された方も事務局までご連絡ください。

《年会費の振り込みをお願いします》

会員の皆様到来年度(2004年9月～2005年8月)の会費を前納していただきたく、お願い申し上げます。賛助会員の方は3,000円、正会員の方は5,000円を請求させていただいております。振り込みをよろしくお申しあげます。今年度分がまだの方は、来年度分と一緒にお願いします。すでにお支払済みの場合は、行き違いをお許しください。

なお、団体賛助会員のお申込みも受け付けておりますので(入会金5,000円、年会費1口10,000円)、特典その他の内容については事務局までご遠慮なくお問い合わせください。

銀行振込口座

NPO法人 日本こどものための委員会  
UFJ銀行(旧三和銀行)  
東松原特別出張所  
普通預金 3688724

郵便振替口座

NPO法人 日本こどものための委員会  
10080 - 98287261